



⑥ カルスト地形と石灰岩【梶原町～東津野村天狗高原】(ペルム紀)

Karst topography and limestone (Permian)

カルストとはアドリア海沿岸の地名で、その地域に石灰岩が化学的に溶食されてできたドリーネ、ウバーレ、ポリエなどの特殊な地形が発達するところから、一般的に石灰岩地域の地形をカルスト地形と呼ぶようになった。

梶原町～東津野村天狗高原から愛媛県大野ヶ原にかけての地域には、ペルム紀石灰岩が広く分布しており、さまざまなカルト地形が見られる。

平均標高約 1,300m の高地に発達するカルスト地形は、日本ではここ以外に知られていない。

この石灰岩は厚い緑色岩(玄武岩)の上のっていることから、海山の上に発達した礁であると考えられ、フズリナをはじめとするさまざまな化石が含まれる。